

◇ 国 語

国 6-1～国 6-14 まで 14 ページあります。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

世界文学と言うと、「世界に普遍的に通用する文学」の意味に使われることが多いが、現実の世界を見渡すと、世界は一つの文化に収斂しゅうれんしていくどころか、以前にもまして多様な様々な民族の活動の場になっており、世界の多言語的状況はますますケンチヨケンチヨなものになっている。インターネットがいくら普及したからといっても、世界の言語はけっして英語にアアすることはないだろうし、個別の民族性を超えた普遍的な文学が生まれつつあるとも思えない。

つまり現実には、この世界は決して「一」なるものにカイキカイキも収斂もせず、世界文学は様々な言語で書かれたいろいろな文学の、気が遠くなるほど多様な集合体なのである。その雑多なものを、雑多なものとして受け入れ、楽しみさえする——そんな世界文学への姿勢があつてもいいだろう。そこではヨーロッパ文学が一番エラくて、日本はそれを後から追っていて、日本以外のアジアやアフリカのものはまだ遅れている、といった因習的な格付けはもはや無効であり、フランスの文学も、名前を聞いたことがないようなカフカスやアフリカの文学も、世界文学としては対等なものとして交流することになるだろう。

しかし、単に多様性を求めるだけで、イイへの信念が欠けていたら、無秩序と混乱に陥ってしまう。世界と出会っていこうとするプロセスは、「こんなにも違うんだ」という他者発見の驚きとその差異に身を貫かれるときの強烈な違和感が一方にあり、他方に「こんなにも違う他者が、こんなに同じで、こんなにもわかるのか！」という喜びと限らない懐かしさがあつて、その間で永遠の往復運動をするようなものではないかと思う。当然、答えは簡単に出ない。むしろ、その往復運動のプロセス自体が「世界文学」なのだと言ったほうがいいだろうか。

チェコの作家カレル・チャペック（一八九〇—一九三八）は、「世界文学はいかに作られるか」というエッセイ（一九三六）でこんなことを言っている。

ディケンズなどという、イギリスのすべての作家の中でも最もイギリス的な作家が、いったい何のおかげで世界的な著作作家になったのだろうか？ これ以上ロシア的なものは考えられないというほどのロシア文学を創造したゴーゴリやその他のロシア作家たちは、いったいどうして世界的な名声を獲得したのか？ 絶対的に北歐的なハムスン、百パーセントアメリカ人のシンクレア・ルイス。そして好むと好まざるとにかかわらず、自分の国や自分の民族の魂や性格を表現し、典型や生活を描いてしまったその他多くの作家たちは？ いま名を挙げた作家たちは一つの精神的な家族や階級に属しているわけではないということは、私も重々承知しているけれども、しかし彼らはみな、ただ一人の例外もなく、国際的な文学のようなものを創りだそうなどは考えず、深く民族的で、徹底的に国民的な作品を創造したのに、そのくせ結局——しかも驚くべき明白さをもって——世界的な意義を持つ作品の作り手になったのだ。(引用者訳)

チャペックは東欧の小国チェコの作家だが、小国の人間として、世界にどう参加できるか強く意識的だった。そして小国であろうと、大国であろうと、自分の固有の場を根拠地に発信していく世界文学がある、という結論にたどり着いた。

(中略)

これまで日本文学は ウ だとしばしば言われてきたが、最近では日本文学の境界を越えて活躍し、日本文学のイメージを塗り替えるような新しいタイプの作家が目立つようになってきている。たとえば、アメリカ人でありながら日本語で小説やエッセイを書き、いまや「日本作家」と自他ともに認めるリービ英雄、日本人でありながらドイツに暮らし、日本語とドイツ語の両方で創作をする多和田葉子、日本語のテクストの中に大量の英語が混入した不思議なバイリンガル小説を書いた水村美苗など。それぞれに独自の個性と異なったバックグラウンドを持った作家たちであり、安易に一つのグループとして括るわけにはいかないが、こういった作家たちの活動を通じて、日本文学の外と内を区別する明確な境界が曖昧になりつつあることは確かである。

リービ英雄は、「英雄」という日本的な名前を名乗っているが、一九五〇年にアメリカに生まれたユダヤ・ポーランド系アメリカ人であって、日系人ではない。外交官だった父の赴任先の台湾や日本で少年時代を過ごした彼は、後にプリンストン大学で日本文学を専攻し、プリンストン大学やスタンフォード大学で日本文学を教え、『万葉集』の英訳も手がけた。アメリカ人のジ

ヤパノロジストとしては大変順調な経歴だったが、彼はその経歴を投げ捨てるようにして、日本語で小説を書くということに挑戦し、みごとに日本で小説家としてデビューした。

一九九二年に野間文芸新人賞を受賞した『星条旗の聞こえない部屋』（講談社）は、横浜のアメリカ領事館から家出をして、新宿に飛び出していく領事の息子を描いた自伝的な作品である。日本人の間には、「日本語は日本人だけのものであって、外国人には日本語で小説は書けない」といった思い込みがまだに強いが、リービ英雄の見事な日本語は、そんな日本人の常識に根本からシヨウゲキを与えるだけの力を持っていた。

リービ英雄には、『日本語の勝利』（講談社、一九九二）というエッセイ集もある。一風変わったこの表題は、何を意味するのだろうか。著者自身の説明によれば、日本人として生まれなかったのに日本語で表現する者が出てきたということが、「日本語の勝利」なのだという。なぜならば、この事態によって、「人種と文化と言語を同一としてきた日本の近代神話」がホウカイシ、日本語が「単一民族イデオロギー」という拘束衣」に対して勝利したことになるからである。本書で著者は、サルマン・ラシュデイの『悪魔の詩』を取り上げ、その登場人物の一人であるインド少年がイギリスで初めて食べるニシンと格闘するという挿話を紹介している。インド少年にとってイギリスとは「骨がいっぱい入った、妙な味のする燻製の魚」であり、彼はそれを食べることによって、イギリスセイフクへの第一歩を踏み出すことになる。それとまったく同じような挿話が、リービ英雄の短篇「仲間」にもあった。ここで主人公のアメリカ人少年ベンは、箸で赤い皮の魚を無理に食べようとして、骨をのどに詰まらせてしまうのだが、リービ英雄にとって日本とは、まさに「骨がいっぱい入っていて、どう食べたらいいかわからない魚」だった。つまり、リービ英雄の『日本語の勝利』という本は、日本語という「魚」に対する著者の輝かしい勝利の記録であったとも言えるだろう。

（沼野充義他編著『文学の愉しみ』による）

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A ケンチヨ

- ①ケンジヨウの美德
- ②竹林のシチケン
- ③志操ケンゴな人物
- ④善行をケンシヨウする
- ⑤ケンギをかける

1

B カイキ

- ①名誉をバンカイする
- ②カイカツな性格
- ③カイキエンを吐く
- ④第三者がカイザイする
- ⑤カイキュウの情をもよおす

2

C ショウゲキ

- ①自己をカンシヨウする
- ②交通のヨウシヨウ
- ③疑惑のシヨウサがある
- ④シヨウリヨにかられる
- ⑤シュシヨウな心がけ

3

D ホウカイ

- ①株相場がホウラクする
- ②ホウフクを恐れる
- ③ゴウホウな性格
- ④神社にホウノウする
- ⑤ホウジヨウに感謝する

4

E セイフク

- ①書類をセイビする
- ②法律をセイテイする
- ③就任をコンセイする
- ④勝利のセイサンがある
- ⑤地方にエンセイする

5

問二 空欄 ・ ・ に入る最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。

①類型化 ②翻案化 ③固定化 ④一元化

①個別性 ②正当性 ③普遍性 ④創造性

①閉鎖的 ②封建的 ③小国的 ④国際的

問三 傍線部 (a) ・ (b) の意味として最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。

(a) 「収斂していく」

- ①凝り固まっていくこと
- ②均一化していくこと
- ③同一化していくこと
- ④一つに集約していくこと

(b) 「重々承知している」

- ①重く受け止めている
- ②十分よく知っている
- ③重要だと分かっている
- ④確かに気づいている

問四 傍線部（一）「その往復運動のプロセス自体が『世界文学』なのだ」についての説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

11

- ①国によって文明・文化の発達の程度には大きな差があるが、すべて対等な文学作品として翻訳され流通することによって『世界文学』となるのである。
- ②他国の文学を理解しようとする動きと、自国の文学を創造し発信してゆこうとする動きの双方向があつてこそ成立するものが『世界文学』である。
- ③文学世界における他者発見の驚き、言語も文化も異なる他者との差異や違和感のみならず、共通性や共感をも同時に持ちうること、の可能性において『世界文学』が成立するのである。
- ④自国以外の文学を読むときに「違うんだ」と「おなじだ」という感覚を同等かつ交互に感じることに出来る文学こそが『世界文学』にふさわしいのである。

問五 傍線部（二）「自分の固有の場を根拠地に発信していく世界文学」とはどのような文学か。その説明として最も適当なもの、次の①～④の中から一つ選べ。

12

- ①作家個人の独自で固有の世界観を翻訳によって広く国際的な場に発表する文学のこと。
- ②つねに自国らしさを国際的な視野の下に俯瞰し、世界の読者を意識して創作する文学のこと。
- ③自国内での出版にとどまらず、翻訳によって時を問わず世界中でも出版を目指す文学のこと。
- ④自らの属する文化の中で自国語で表現することに徹しながらも世界に通用する文学のこと。

問六 傍線部(三)「日本文学の外と内を区別する明確な境界が曖昧になりつつあることは確かである」についての説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

13

- ①世界の文化を積極的に取り入れるために、文学の中に描かれる日本はもはや海外との区別がつきにくくなってきた。
- ②グローバル化が進み、海外と日本との相互交流と相互理解が盛んになりつつある現代では、両者に区別をつけることは無意味になりつつある。
- ③インターネットの普及によって世界中の情報が瞬時に拡散する社会において、日本文化の独自性や日本文学であるか否かの意識が薄れつつある。
- ④交通手段の発達により、作家も様々な国で暮らすことが可能になり、複数の言語によって創作する作家が増加してきたために、文学を国や人種によって括れなくなった。

問七 傍線部(四)『日本語の勝利』という表題はどのような意図でつけられたのか。その説明として最も適当なものを、次の

①～④の中から一つ選べ。

14

- ①リービ英雄が、日本人以上に日本語を理解し、日本語で自在に表現することができるようになったということを表した表題。
- ②日本語が、世界の言語の中においても、美しい響きや豊富な語彙を持つことが注目されて、海外でも日本語学習が広まっていることを示した表題。
- ③日本語を母語としない作家が、日本語を選んで小説を書いたという事実が、日本語を人種や文化と同一視する従来の見方を覆したという意味を込めた表題。
- ④日本という地域でしか使われない言語である日本語が、リービ英雄の小説によっていかに魅力的な言語であるかが知られるようになったという意味をもつ表題。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

保守主義の聖典ともいわれる『フランス革命についての省察』は、十八世紀英国の政治家・政治思想家エドモンド・バークの代表作である。

一七八九年七月十四日に起こったフランス革命に対して、すぐさま徹底的なヒハン^Aを加えたものであり、政治思想における保守主義の最初かつ最高の表現とされている。

この論文を、バークは五十一歳のときに執筆したが、二十八歳の青年のとき、もう一つの代表作である『崇高と美の観念の起源』と題した美学論文を出版した。

この作品が画期的だったのは、崇高という観念を、美と対比して強調したことである。

美が均斉、秩序、調和、快などにもとづくのに対して、崇高は、ユウダイ^B、悲劇、畏怖、高揚などに関係している。

美は人間のシャクド^Cの中に収まっているが、崇高は、人間を超えたものに起源をもっている。

まもなくフランス革命が起きることになる近代の激動期に、均斉、調和の古典主義的美学を乗り越えようとして、バークは崇高を唱えた訳だが、私が興味深く思うのは、一見、たんに秩序、調和を重んじそうな保守主義というものは、実は崇高の観念に支えられていなければならないのではないかという点である。

ア 思うに、日本人はどちらかというと美の民族である。

NHK教育テレビで、「美の壺」という番組をやっているが、とりあげられるものは、焼き物、表具、根付、風鈴といった「美的な、余りに美的な」ものであり、不安きわまりない現代に生きていて、このような小さなものたちに心の安らぎを求める気持ちも理解できないではないが、これらに崇高の感覚は乏しい。

例えば、^三広島^二の原爆ドームは美しくはない。あれは、崇高なのである。歴史の悲劇がそこにあるからである。

今、このドームの近くに高層ビルが建ちつつあり、景観の問題が起きているが、こんなことになるのも、原爆ドームの崇高さを身に迫って感じられなくなっているからではないか。

この崇高の感覚がなければ、真の保守主義は成り立たないに違いない。歴史は本来、崇高なものだからである。

崇高の感覚がキハクな「戦後民主主義的な」精神風土の中では、大東亜戦争はたんに悲惨な歴史になってしまふ。悲惨ではなく悲劇なのである。悲惨は、崇高な感覚があつてはじめて、悲劇となる。

小林秀雄は、昭和二十一年一月のある座談会で、次のような発言をした。戦後、最初の発言である。

「僕は政治的には無智な一国民として事変に処した。黙って処した。それについて今は何の後悔もしていない。大事変が終つた時には、必ず若しかくかくだつたら事変は起こらなかつたらう。事変はこんな風にはならなかつたらうという議論が起ころ。必然というものに対する人間の復讐だ。はかない復讐だ。この大戦争は一部の人達の無智と野心とから起つたか、それさえなければ起こらなかつたか。どうも僕にはそんなお目出度い歴史観は持てないよ。僕は歴史の必然性というものをもつと恐ろしいものと考えている。僕は無智だから反省なぞしない。伶俐な奴はたと反省してみるがいいじゃないか。」

これは、当時「イ」にとられたものだが、戦後六十一年目の今日読み直してみれば、実にまともな発言である。

「伶俐な奴」は、現在でもまだ「たとと反省して」いる。厚かましくも歴史をいじくりまわしている。

「歴史の必然性というものをもつと恐ろしいものと考えている」小林は、歴史の崇高性を感じ取っているのである。そして、「政治と文学」という文章の中では、自らの発言に触れて、大東亜戦争で日本人は「正銘の悲劇を演じたのである。」と書いている。

憲法にしても、教育基本法にしても、さらには靖国問題、皇室問題にしても、この崇高の観念に深く根差さなければ、スィチョク性をもつてしつかりと立つことはできないのではないか。

久しぶりに再来日した外国人がウにいうことは、日本は汚くなったということである。これは、景観などの物質的なものだけでなく、精神のホウカイも指しているであろう。

そうなつてしまった日本を「美しい国へ」修正するのは当然必要だが、さらに崇高な感覚が不可欠であろう。

(新保祐司「真の保守主義に必要なものは何か」産経新聞2006年9月5日)

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を使うものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A ヒハ^ン

- ① ハンゼンとしない結論
- ② ボウハン活動をこなう
- ③ ショハンの事情
- ④ ハンロンの余地がない
- ⑤ 利益をセツパンする

15

B ユウ^ダイ

- ① 事態をユウリヨする
- ② シユウを決する
- ③ ユウシユウの美を飾る
- ④ ユウキユウの昔からの営み
- ⑤ お金をユウズウする

16

C シヤ^クド

- ① シヤクゼンとしない態度
- ② スンシヤク詐欺に遭う
- ③ 情状をシヤクリヨウする
- ④ マシヤクの合わない仕事
- ⑤ コウシヤク夫人

17

D キハ^ク

- ① タイルがハクラクする
- ② ハクシキを披露する
- ③ 罪をコクハクする
- ④ セツパクした状況
- ⑤ ハクジョウな人

18

E スイ^チヨク

- ① 率先スイハンして実行する
- ② 彼は趣味の多いスイジンだ
- ③ 委員長にスイキヨする
- ④ 身体がスイジャクする
- ⑤ 任務をスイコウする

19

問二 空欄

ア

イ

ウ

に入る最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。

ア

① 却かえって

② 逆さからって

20

③ 翻ひるがえって

④ 従したがって

イ

① 讒ざん言

② 諫かん言

21

③ 放言

④ 至言

ウ

① 同床異夢

② 同工異曲

22

③ 大同小異

④ 異口同音

問三 傍線部(二)「美的な、余りに美的な」とはどういう意味か。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

23

① 非常に美しく番組において取り上げるに値する。

② 美的という点では納得できるが美的の域を出ない。

③ 美的という点でも崇高という点でも納得がいく。

④ 不安きわまらない現代で安らぎを求めるには物足りない。

問四 傍線部（二）「広島原爆ドームは美しくはない」とあるが、なぜか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

24

- ①元は美しかったが、時が経過し、すっかり傷んで汚くなってしまったから
- ②ドームの近くに高層ビルが建ち、景観面で美しくなくなってしまったから
- ③美しいと思う人もいるかもしれないが、筆者は美しいと感じないから
- ④原爆ドームは美的観点からではなく、崇高ととらえるべきものだから

問五 傍線部（三）「必然というものに対する人間の復讐だ」という言葉によって小林秀雄は何を言いたかったのか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

25

- ①大東亜戦争が起こった現実を受け入れることができない日本人の悪あがきである。
- ②歴史を反省し別の可能性を考えてみるのが未来への希望につながるのである。
- ③大東亜戦争で負けてしまった相手国に対し、少しでも優位に立ちたいと思う幻想である。
- ④伶俐な人間は、歴史の必然性に対して復讐をおこなうことができるのである。

問六 傍線部(四)「現在でもまだ『たんと反省して』いる」とはどういうことか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ①日本人が戦争を起こしたことを自分の罪として深く反省し、反戦を誓っている。
- ②歴史を崇高なものだと受け入れ、戦争について現実面から考えている。
- ③相変わらず大東亜戦争は、一部の人間が起こしたのだと思いきみ続けている。
- ④歴史の必然性を恐ろしいものだととらえ、二度と戦争を起こさない運動をしている。

26

問七 本文の内容に当てはまるものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ①エドモンド・バーグは美という概念の中から、崇高という観念を取り出し、分析した。
- ②保守主義は秩序、調和を重んじるのが本道であり、その点で美学的な観点との結びつきが強い。
- ③崇高という観念は人間を超えるものであるが、保守主義を裏から支えてくれるべきものである。
- ④フランス革命は、人間を超えた崇高という観念に支えられて、起こったものである。

27

問八 本文の内容に当てはまらないものを、次の①～④の中から一つ選べ。

28

- ① 「美の壺」は美的観点から作られ、不安きわまりない現代において心の安らぎを与える番組となっている。
- ② 戦後民主主義的な精神風土の中でこそ、歴史の崇高性を感じ取り、日本を「美しい国へ」修正することができる。
- ③ 歴史の必然性を恐ろしいものと考えている小林秀雄は、大東亜戦争を「悲劇」だととらえていた。
- ④ 広島原爆ドームは美学的観点からは美しくないが、歴史の悲劇があるという点で崇高と言える。